

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立白山小学校

校長名 青木 里美

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・5、6年の算数科を中心に、ICTを活用した「学び合い学習」に取り組み、授業改革を推進する。 ・総合的な学習の時間などでは、地域のひと・もの・ことに積極的に関わった教育課程を再編成し、展開する。 ・生命の尊厳、思いやりを重点とし、道徳教育・人権教育を推進する。	A	・5・6年の算数科を中心に旧態からの脱却を図り、確実に大きな成果を残している。 ・ぎふMirai's、道徳PU、人権教育発表を通して、目指す子どもを育てることができた。 ・特にぎふMirai'sでは、総合的な取り組みについて高評価をいただいた。	・ぎふMirai'sを通して地域や岐阜市の伝統にも触れる機会をもっている白山小学校は素晴らしい。 ・白山サミットを通して、全国の白山小と交流ができ、より広い視野をもてるような環境でとても良い。 ・地域のこと全般にわたり知識を深めることは俯瞰的に社会全体の中の自分を見つめることにつながる。教科の学びと同等の重要性があるという認識を共有し、学校、家庭、地域の連携を駆使して、生きることの喜びを伝えていくことが大切である。	・道徳PUを通して、道徳教育・人権教育を教育の根幹として、推進していきたい。 ・目指す子ども、授業の形態、ICT教育など、日進月歩で進んでいく教育の進歩の最先端を走るべく、研修を充実させたい。 ・少人数を生かした教育課程を工夫していく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・運動会行事や防災訓練など、地域と学校とが双方で連携し、協働する活動を推進する。 ・ボランティア人材を発掘・確保し、教育活動の充実を図る。 ・学び方の視点で小中の連携を図り、子どもたちの学ぶ力を伸ばす。	A	・学校と地域合同の運動会は、3年目となり、地域の人たちとのより深い結びつきのもと、交流を図ることができた。 ・地域の活動、PTA活動にも、保護者、子どもたちが積極的に参加し一緒に活動することで、地域とのつながりを深めたり、地域の将来を担う人材を育成しようという機運が生まれたりした。	・コミュニティスクール構想を実践スタートしてから、10年ほどが経過し、貴校においても大きな成果が発揮されていると感じる。 ・重点項目通り地域と学校との連携がしっかりしているところが白山校区の魅力だと感じます。 ・小中一貫教育については、中学校へスムーズに進めるように、学び方、目標を示してあげると安心できるかもしれません。	・誰かのために働くことの楽しさ、気持ちよさは心の栄養にもなる。子どもたちが、学校内で、地域で、小さなことからでもよいので、豊かな心を育むためにもボランティア活動参加の機会を大切に指導したい。
あたたかさとしながい学校づくり	・温かく子どもに寄り添う教師集団を目指し、教師間の対話を活性化し、共通理解、協力行動に努める。 ・業務を見直し、仕事の効率化を徹底する。 ・日課変更による放課後のゆとりを活用し、教師間で児童理解や指導方法などを教え合ったり、学び合ったりする。	B	・職員室の雰囲気の良い、教師間の連携のよさを、いろいろな機会でも地域の方からも評価をいただいている。 ・業務改善について、保護者、地域にも理解をいただき、順調に進みつつある。 ・道徳PUに向け、たくさん研修の時間を確保することができた。	・子どもたち、先生方の笑顔があふれるすばらしい学校です。 ・先生方の子どもたちと見つめる目はとてもやさしく、休み時間に子どもたちと一緒に遊ぶ先生方の姿がステキだと思う。 ・教師同士が仲良く、児童と優しく接してもらえば、より信頼が深められると思う。 ・貴校においては、教員間の連携、理解、情報共有が濃密に徹底されている。これからも、教職員全員が、小さなことでも何でも知っているという組織風土を維持してほしい。	・教職員間の情報共有について、「子どもが軸足」であることを大切にし、必要な情報を共有し、全職員で指導に当たる。 ・業務の効率化、働き方改革を推進しつつ、教育の根幹となる大切な部分をしっかりと精査し、不易と流行を大切にしていこう。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・「子どものために」を合い言葉に、問題行動にチームで対応し、素早い対応と解決に努める。 ・様々な危険から命を守る、実践的な訓練を年間通して行う。専門家の指導を仰ぐ機会を多く設定する。 ・危機管理マニュアルを緊急時に有効活用できるよう、工夫改善を図る。	A	・令和6年1月の災害・事故の教訓をもとに、「今、自分がすることは何か」を、教職員も、児童も考えながら、防災教育を推進することができた。 ・全校で実施した通学路の安全対策に防災士の方からも高い評価をいただいた。 ・いじめ対策・情報モラル教育、道徳教育、人権教育、安全教育などを関連させて実施することにより、子どもの姿となって表れた。	・「子どものために」と先生方同士が連携してみえて行動してみえるので、子どもたちも安心して学校生活を送っていて明るい学校だと感じている。 ・災害や事故などの問題が起きた時、同じ手順で動けるように、定期的に訓練を行い、全員がスムーズに連携できるようにおくとよい。 ・学年が上がるにつれ、ネットトラブルなども気にトラブルに巻き込まれないための対策や子どもへの注意喚起も行っていく。	・学校での想定外の事故、事案はどれだけ避けようとも、避けようがない事案もある。大切なことは、日常の管理体制はもちろんのこと、事後の対応を迅速かつ誠実、丁寧に行い、改善に結びつけることが大切であろうと考える。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・活用研修や実践交流を通じて、職員のICT活用技能を高め、学校生活全体の教育DXを推進する。 ・危険箇所の早期把握と早期修繕に努めたり、危険物になり得る教具などの整理・管理を徹底したりする。 ・財務管理では、複数の目での点検を徹底する。	A	・ICT、教育DXにより、効果的な学習を進めることができた。 ・通学路安全対策ワークショップ対象校区に選んでいただき、白山校区の安全対策を劇的に推進できた。 ・紙配信を減らし、経費節減に努めた。	・授業参観などで様子を拝見しても教育DXが進んでいることを実感する。 ・わたしの木の枝が一部支えられているところがありました。少し前に東京の方で枝が落下する事故がありましたので気になる。 ・財務に関しては、デジタルで管理できると無駄な出費が減らせる。	・ICT、教育DXなど、研修を推進したいが、効率化だけでは測れない不易の部分も大切にしたい。 ・今年度大学共通テストに初めて「情報」科目が採用されたように、金融、保険、投資など、時代を先取りした教育についても検討していく。